東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

保護者の体育に対する価値判断規準の変容プロセスに関する研究：家庭と学校間での「メディアポートフォリオ」の共有を通して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): Physical Education, Parents, Criteria, Trajectory Equifinality Model, Media Portfolio 作成者: 石井, 幸司, 鈴木, 直樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174081

学校教育学研究論集　第45号　（2022年3月）

保護者が有する体育に対する価値判断規準の変容プロセスに関する研究

── 家庭と学校間での「メディアポートフォリオ」の共有を通して ──

石井　幸司*・鈴木　直樹**

本研究の目的は，「メディアポートフォリオ」（鈴木，2008）を子供・保護者・教師の3者間で共有することを通して，保護者の体育に対する価値判断規準がどのように変容するかを明らかにすることである。「メディアポートフォリオ」を2年間にわたって共有した保護者の中から，子供との相互作用に変化があった3人を無作為で選定した。それらを対象に，ライフストーリー・インタビュー調査を実施し，複線径路・等至性モデルを用いて分析を行った。

その結果，保護者目線から幼少期の我が子からつくられたイメージや周りの子供と技能を比較していた価値判断規準から，子供自身の体育の学びの表情から，子供の視点で学びを解釈する絶対評価に体育の価値判断規準が変容したことが明らかになった。具体的には，「メディアポートフォリオ」共有当初は，保護者は我が子の運動の出来や基本的な体の動かし方に対して，保護者の視点で体育の学びを相対的に価値判断していた。しかし，「メディアポートフォリオ」を長期的に共有することで，我が子の「いまーここ」の体育の学んでいる子供の表情に注目するようになった。さらに，保護者は運動への参加の仕方や技能発揮の仕方，思考を働かせている場面を，子供の視点から価値判断する規準へと変容するプロセスが明らかになった。また，「メディアポートフォリオ」を子供・保護者・教師間で長期間共有することで，保護者は子供のありのままの姿を認めながら，子供に寄り添って支援的なかかわり方へと変容することが示唆された。

Key words

体育，保護者，価値判断規準，複線径路・等至性モデル，メディアポートフォリオ

*東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 健康・スポーツ系教育講座／江戸川区立新田小学校

**東京学芸大学